取 扱 説 明 書

オイルチェンジャー 5.5L

CAP Style

この度は本製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。ご使用前に必ず本書をお読みください。
また本書は大切に保管し、必要な時にお読みください。

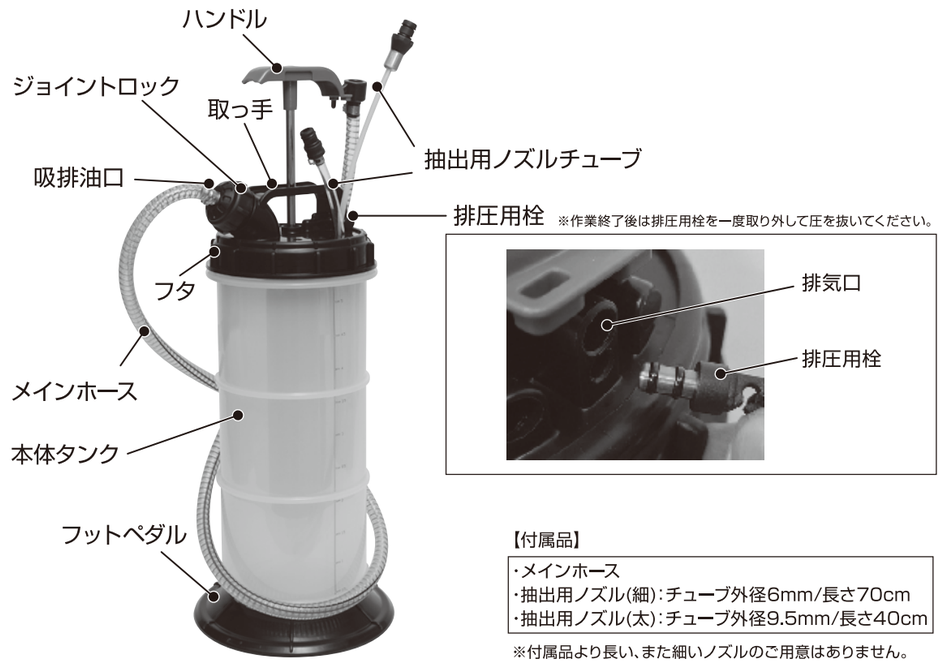
⚠【警告】必ずお読みください

●ガソリン・軽油・重油などの燃料の抜き取りには絶対に使用しないでください。(爆発・火災の恐れあり)
●本製品を使用する際は、エンジン・補器類・潤滑油の温度が十分に下がったことを確認し使用してください。(火傷の恐れあり)
●本製品を使用する際は、エンジン・ハイブリッドシステムが完全に停止していることを確認し、作業してください。(冷却ファンなどが急に回転し、ケガをする恐れあります)
●誤発進防止の為、AT車の場合は「P」ポジション、MT車の場合はギアが「1速」または「バック」に入っていることを確認し、駐車ブレーキを作動させてください。厳寒時に使用する際は駐車ブレーキを使用せずに輪止めを使用してください。(車両が動き出す恐れあり)

⚠【注意】必ずお読みください

●本製品は船舶・農業・産業機械などのエンジン・自動車に関連する潤滑油の交換を目的としたものです。ガソリン・軽油・重油・灯油などの燃料油・ブレーキオイルの抜き取りには使用できません。本製品の部品を侵して破損させるだけでなく、爆発・火災の恐れがあります。
●本製品を使用する際は平らな場所で使用してください。(車両が水平であることを確認してください)
●走行直後はオイルの温度が非常に高く、火傷あるいは容器の破損等の恐れがありますので、オイルの温度が50℃以下になるまで使用しないでください。
●本製品を使用する前に必ずオイルレベルゲージの長さと抽出用ノズルの長さを比べ、抽出用ノズルの長さがオイルレベルゲージよりも5cm以上長いことを確認ください。抽出用ノズルの長さが足りない場合は本製品を使用しないでください。
●オイルレベルゲージの穴径が7mm以下の場合は使用できません。
●本製品に付属のホースよりも長い、または細いホースのご用意はございません。予めご了承ください。
●抽出用ノズルを挿し込む際、絶対に無理に押し込まないでください。ノズルのチューブがエンジン内部にかみ込み、抜けなくなる場合があります。
●オイルレベルゲージの通路が屈曲しているエンジン・スムーズに抽出用ノズルが入らないエンジンには、無理に抽出用ノズルを挿入しないでください。抜けなくなるだけでなく、ホースが途中で切断され取り出せなくなる場合があります。(抜けなくなった場合は無理に抜かずディーラーまたは自動車整備工場にご相談ください)
※本製品以外のトラブルについての責任は負いかねます。
●オイルレベルゲージの無い原動機・自動変速機などの潤滑油の抜き取りには使用できません。
●本製品内部の清掃を行う際は、ブレーキクリーナー・パーツクリーナーなど揮発性の物質を直接噴射して清掃しないでください。(溶剤成分が内部部品を侵し、破損につながる恐れがあります)清掃する際はウエス等で油分を拭き取った後、ブレーキクリーナーをウエスなどにスプレーしてから拭き取るようにしてください。
●勢いよくポンピングするとハンドルと取っ手の間に指を挟む恐れがあります、ご注意ください。
●本製品以外の事故やトラブルに関しての責任・補償は負いかねます。
●異常を感じたら使用をおやめください。

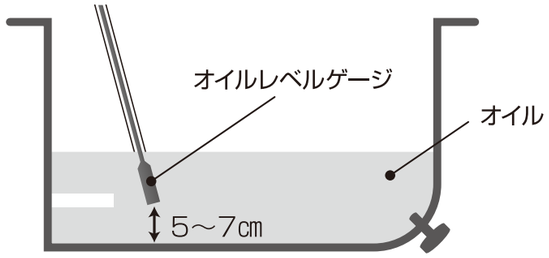
本製品各部の名称



【付属品】
・メインホース
・抽出用ノズル(細):チューブ外径6mm/長さ70cm
・抽出用ノズル(太):チューブ外径9.5mm/長さ40cm
※付属品より長い、また細いノズルのご用意はありません。

使用方法　※オイルを抜く前に抽出用ノズルの確認

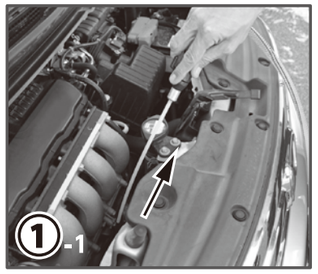
①抽出用ノズルを挿し込む前に車両側のオイルレベルゲージの挿し込み寸法を確認してください。オイルレベルゲージの先端からオイルパンの底まではおよそ5~7cmです。抽出用ノズルが底まで届かないとオイルを完全に抜き取ることが出来ません。
②エンジンのオイルレベルゲージの穴径は目安で7mm以上。抽出用ノズルを無理に押し込むと破損の原因になります。

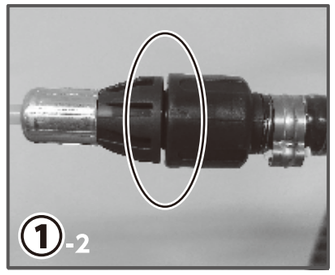


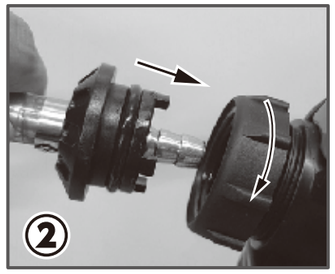
裏面も必ずお読みください。

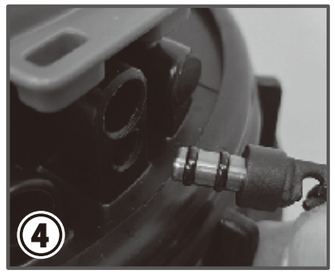
使用方法

①エンジンに装着してあるオイルレベルゲージを抜き取ります。オイルレベルゲージの穴径に合う抽出用ノズルを選んで、オイルレベルゲージの穴にノズルのチューブを挿し込み、吸排出口に取り付けたメインホースと接続します。
②ジョイントロックを右(時計回り)に回して締め、メインホースのジョイント部分を最後まで押し込みます。
※緩みのないことを確認してください。
③両足でフットペダルを踏み本体のハンドルを一番上まで上げて、上下に10回～20回ポンピングするとオイルを抽出できます。(作業中はポンピングを続ける必要はなく、ポンピング後は自然にオイルを吸い出し本体タンクに溜まっていきます) 吸い足りない場合は、再度ポンピングします。
④作業を終了する際フタにある排圧用栓を引き抜き、圧を抜いてください。
※本体タンク内が廃油で満タンになるとオーバーフロー防止フロートが働き、自動でオイルの吸い出しが止まります。





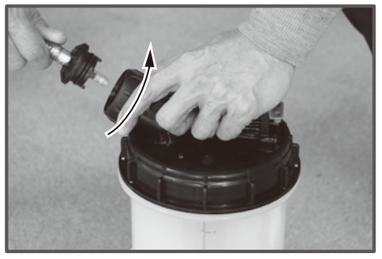




※勢いよくポンピングするとハンドルと取っ手の間に指を挟む恐れがあります、ご注意ください。

メインホースを取り外し、廃油を移し替える

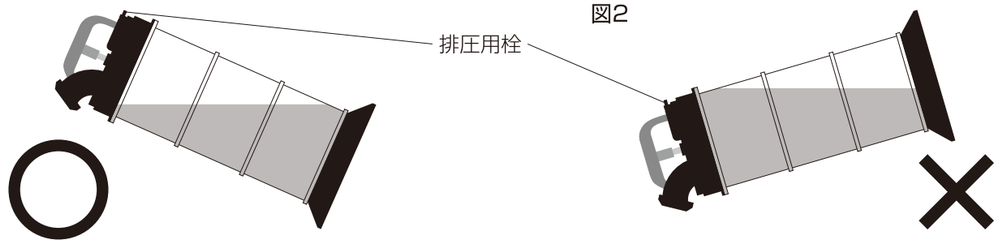
①ジョイントロックを左(反時計回り)に回して緩めます。
②ロックが緩むとメインホースが自然に外れます。外した後はロックを締めてください。



オイルを移し替える際の注意

オイルチェンジャーを傾けて廃油を捨てる際に、図1のように排圧用栓の部分までオイルが満ちない様、ゆっくり傾けてください。
万一、図2のように傾けてしまった場合、中央芯部のポンプ内にオイルが入り込み、排圧用の穴からオイルが漏れる恐れがあります。
(入り込んだオイルが完全に抜ければ漏れは止まります)

図1　　図2

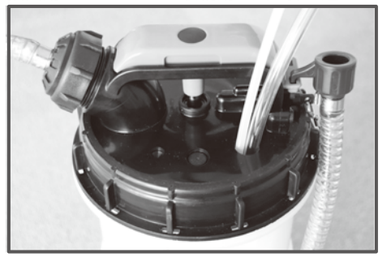


※廃油はお住いの地域ルールに従い、適切に処分してください。

保管方法

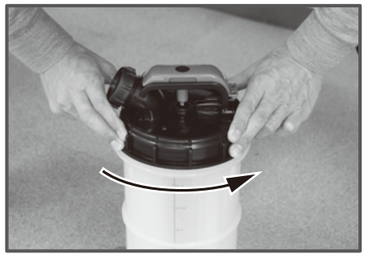
メインホースは本体タンクに巻きつけ、ジョイント部分のフックをハンドルの後部に引っかけます。

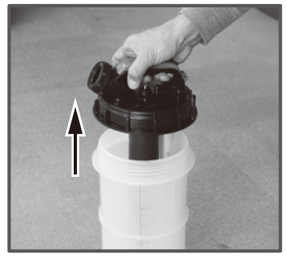
抽出用ノズルはフタの収納用の穴に挿し込む。



内部のお手入れが必要な場合のフタの外し方　※通常時は外す必要はありません

①フットペダル・本体タンクをしっかり押さえて固定してください。
②排圧用栓を抜いてフタを左(反時計回り)に回して緩めます。緩みにくい場合はドライヤーなどで温めると緩みやすくなります。(工業用ヒートガンは使用しないでください。変形の原因となります)
③フタのネジが外れたら、取っ手を持ちゆっくり上に引き上げます。
※メンテナンスが必要な時のみ開封し、通常のオイルの排出は吸排油口から行ってください。





故障かな?と思ったら

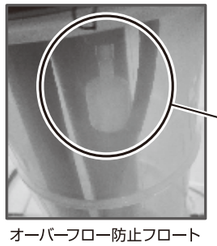
オイルの抽出に時間がかかる

●冬場でエンジンオイルが完全に冷えていませんか?
粘度の高いエンジンオイルは多少温まっている方が柔らかく吸いやすくなります。外気温が15℃以下の場合は、5～10分程度暖機すると抜きやすくなります。
▶ギアオイルなど粘度の高いオイルは抽出ノズル(太)をご使用ください。
▶走行直後は油温が90℃を超えていますので冷めてから作業してください。
※油温が高いとポンピング動作中に、排気口から高温の霧状のオイルが排出され火傷の原因になります。

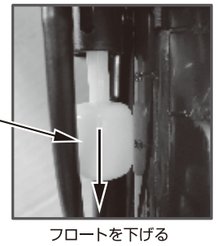
●抽出ホースが折れ曲がっていませんか?
ホースが折れ曲がっていると流路が狭くなりオイルが流れにくくなります。ホース・チューブが張らない様に余裕をもたせてください。
▶抽出ノズルのホース挿入時に抵抗を感じる場合は無理に押し込まないでください。ホースがエンジン内で折れ、取り出せなくなる恐れがあります。
▶エンジン内にホースが残った場合の修理費用などは弊社では負担しかねます。

ハンドルが動かない(ポンピングできない)

●本体タンク内のフロートを確認してください。
上項を参照し、フタと本体タンクを開封して、フロートを手で下げると使用できるようになります。



オーバーフロー防止フロート



フロートを下げる

ポンピング時に排気口から空気と一緒に霧状のオイルが排出される

●エンジンオイルの温度が高い、またはエンジンオイルとオイルチェンジャー本体の温度差や気温差がある。(寒冷時)
タンク内でオイルが霧化しやすくなり、オイル抜き取り中に続けてポンピングすると霧状のオイルが排出される場合があります。その場合はタンク内のオイルの霧化が落ち着いてからポンピングを行ってください。(故障ではありません)

株式会社 CAPスタイル
東京都大田区大森北1丁目11番5号
商品のお問合わせ・お客様相談窓口は
フリーコール 0120-992-188
(土・日・祝日を除く　9:30～18:00迄)
*12:00～13:00を除く *夏季休業、年末年始を除く